

世界が日本に注目するこれからの時代に大切なこと

生涯学習開発財団理事長 松田妙子

新年あけましておめでとございます。

日頃より生涯学習開発財団へのご理解を賜り感謝申し上げます。

当財団では、日本の文化や伝統技術を次の世代に継承する大切さを訴え、本情報誌でも古来の日本人の暮らしに密着したテーマを取り上げ、お届けしております。

昨年6月、日本を代表する富士山がユネスコの世界文化遺産に登録されました。財団が運営する河口湖畔のセミナーハウス「有隣園」は元々松田家の別荘で、私は幼少のころから毎年夏に訪れ、また戦中は疎開先でもありました。いつも富士山をそばに感じ、その雄大な姿に勇気づけられてきた気がします。その富士山が世界遺産に登録されたこと

を大変嬉しく思うと同時に、母が富士山を見ながらいつも私に言っていたことを思い出します。

「富士の山は凜として動じないけれど、富士の景色は一瞬たりとも同じではありません。世の中も常に変化しています。動じない自分の信念を持ちつつ、その時々を大切に生きて一生懸命生きること」

変わらないことの大切さと同時に、変化していくことの大切さも学びました。社会と生涯学習の関わりも同じだと思っております。世の中が急激に変化する今日、自分の変わらぬ信念を持ちつつも、その時代時代に合った社会との関わり方を見つけなくてははいけません。そのための生涯学習なのです。

もうひとつ、昨年12月に「和食 日本人の伝統的な食文化」が世界無形文化遺産に登録されました。本誌では今号から、協賛会員である（一社）FLAネットワーク協会ご協力のもと「旬を味わう」と題した連載を開始します。二つの世界文化遺産を含め、世界から今日本は注目されています。また高齢社会の先進国としての日本も、今後さらに注目されることでしょう。そうした背景も考え、財団のホームページに英訳ページを掲載しました。世界が注目する中、日本文化の素晴らしさと生涯学習の大切さを、ともに提唱していきたいと考えております。

皆様と共に本年も前向きで元気な一年となることを祈願し、新年のご挨拶とさせていただきます。



河口湖畔のセミナーハウス
有隣園から望む富士山